

川端遺跡発掘調査実績報告書

中央構造線断層帯調査に伴う 川端遺跡発掘調査実績報告書

1、調査地

徳島県板野郡板野町字中谷12他

2、調査期間

平成10年8月1日～9月30日

3、調査原因

中央構造線断層帯調査に伴う埋蔵文化財発掘調査

4、調査対象面積

314㎡

5、調査担当

谷 恒 二、笠井 敬 介

6、調査成果

①調査地の現況と周辺の遺跡

阿讃山脈東部の南麓に位置し、旧吉野川により形成された段丘の北、中谷山の南東斜面に位置している。標高は6.5m～7.6mを測り、現況は山麓の緩やかな斜面が削平された平坦地で水田及び、荒れ地となっている。

本遺跡の周辺には、周知の遺跡である「阿王塚・亀山古墳群」「吹田古墳群」などが北西にかけてあり、また東には、「愛后山古墳」などの古墳群が半径約1km以内に点在している。また、本調査地の近隣に周知の「川端遺跡」がある。

これらの遺跡には、古墳時代はもとより古代から中世に至る先人の営みが今も残っている。

本調査地にもこれらの時代と対応する遺物・遺構の残る可能性が極めて高いと言えよう。

②土層の堆積状況

図4のように1層の攪乱された客土層以下に、2層の耕作土、暗オリーブ褐色(2.5Y3/3)の粘性砂質土。3層、床土、黄褐色(2.5Y5/4)の粘性砂質土の下には、4層、包含層と言うよりも流動的な層状を示す客土的性格であると考えられる、遺物の多く混入する層、灰黄褐色(10YR4/2)の粘性砂質土層がある。5層の褐色(10YR4/4)粘性砂質土直上が遺構構築面となっており、これが地山層である。5層においては、その圧力や熱によるグライ化の現象が見られる褐灰色(7.5YR4/1)のシルト質の粘質土層となっている。その下層には、礫層褐色(10YR4/4)などの堆積があり扇状地特有の押出し層になっていることが確認された。

3層より下には、周辺にある中央構造線が引き起こした地震の影響による噴泥の現象・地割れ・落ちこみなどもやや多く見られる。平面的にもB-2, B-3, C-4グリッド付近に若干の落ち込みが確認された。

③検出された主な遺構

遺構総数は、37基(図5の遺構配置図参照)。

遺構数のほとんどが柱穴の可能性のある土坑やピット(33基)で、柱痕や礎石が確認された柱穴もある。また、土坑(SK)4基には、土師器片・須恵器片や炭粒などが出土した。遺構からは、須恵器片(古墳中期～後期)及び8～9世紀にかけての高台のある須恵器や塗りのある須恵器片が出土した。また、溝状遺構(2基)も検出された。主な遺構について次に述べる。

*SP1009: 柱穴遺構で柱痕及び礎石が確認された。

*SP1008, 1009, 1013, 1027, 1028: 柱痕が確認されたが、掘立柱建物の復元はできなかった。

*SK1003: 土坑的な遺構か柱穴の両面で考えている。遺物がごく小さい土師器片71点(上層に円筒埴輪片7点含む)や炭粒などが出土した。ただ、若干覆土の中央部に柱痕のような土層堆積も見られる。

*SK1004: 土坑というよりもむしろ柱穴遺構であろうと考える。覆土に柱痕が明確に残っている。SP1007, 1014とのつながりにおいて掘立柱建物がありそうであるが、他の柱が落ち込み等で確認できない。

*SD1001: 出土遺物は、やや完型の須恵器の壺が出土した。平面的形状から人工的に何らかの目的で掘られた溝であるようである。B-1の中ほどで自然の落ち込みを受け確認不能となっている。

*SD1002: 自然流路的性質を持つ遺構であろう。本遺跡で特に重要視すべき数点の形象埴輪片及び、円筒埴輪片(図8その2・その3の実測図参照)が出土した。時代的には古墳中期から後期(5世紀中葉~6世紀前葉)であろう。(出土状況は、図7参照)

*SX1001: 遺構というよりもむしろ地震などの自然発生的な落ち込みであろう。遺物はほとんど採取されなかった。

(遺構検出状況及び、主な遺構の覆土堆積状況は図5・図6に記載)

*グリッドB-3: 遺構ではないが、第3層中から出土遺物に埴輪片が特に多い。他に、石(直径30cm程度)及び白色円礫(握りこぶし大)も出土したが、その下からその後の時代に作られたであろう布目瓦の出土もあった。やはり流動的な層と考える方が妥当であろう。

④ 出土した主な遺物

遺物総点数10,410点

遺物としては、土師器片5,752点そのうち埴輪片3,421点、須恵器片690点そのうち須恵質の埴輪片6点、石器(サヌカイト製石鏃2点、スクレイパー?1点、サヌカイト片14点、チャート片1点・鉄片3点・瓦片23点そのうち布目瓦片12点、その他炭なども出土した。

土師器には、櫛描きの波状の紋様が施された甕の口縁部や刷毛目が内側に施されている鉢か甕の土器片が見られる。須恵器にも刷毛目や叩き目の施された壺・鉢・甕などが多く採取された。高台のある須恵器や塗りのある須恵器片の出土もあった。

埴輪片は、3,412点(そのうち円筒埴輪627点、須恵質の円筒埴輪6点)と特に多く、客土的な層及び溝などの遺構から出土し、また、本調査地に古墳のあった形跡のないことから、この遺跡の周辺かごく近隣に古墳があった可能性があると考えられる。形象埴輪は、馬及び、家型埴輪が出土し、得に馬型埴輪の頭から上の部分は完型に近い。时期的には、5世紀中葉~後葉であろう。

本遺跡の出土遺物は、古墳時代中・後期~奈良・平安時代(8~9世紀頃)であろうと考えられる。(主な出土遺物の実測図は図8その1~その3参照)

⑤ まとめ

本調査地の発掘調査は、断層帯調査と併行したかたちで進められたもので、調

査に先がけて断層帯の地層調査用トレンチが掘削されていたためSD1002など数基の遺構が途中で削られていた点が悔やまれる。

今回の調査で分かることは、土層の堆積状況において、遺構構築面のある褐色(10YR 4/4)の土層の直上には包含層というよりもむしろ、流動的な二次堆積した層があること。最下層には、礫層などの堆積があり扇状地特有の押出し層になっていること。また、近くに崩壊地があり床土直下や二次堆積した第4層直上にまで最下層よりも新しい礫層が堆積していることが確認された。

遺物・遺構については、出土遺物、特に埴輪片の多くから、先述のように本遺跡周辺かごく近隣に古墳があったであろうということ。そしてその時代以後から平安時代前期頃までの先人が、この地で何らかの暮らしを営んでいた生活の「場」であったこと、人工の溝を作ったり、耕作し、家を建てて暮らしていた様子が遺構から考えられよう。無造作に流れ込んだ埴輪片と置かれた状態にある須恵器の蓋や出土した土師器の甗・杯・皿や石鏃、サヌカイト片などからもその一端が伺える。

1. 犬伏蔵ヶ谷瓦経塚 2. 奥郷古墳群 3. 愛宕山古墳 4. 熊野神社古墳群
5. 北山古墳群 6. 谷口山古墳 7. 極楽寺古墳群
- A. 吹田古墳1. 2号、ほか円墳など B. かんぞう山古墳群、大塚古墳、丸山古墳など
- C. 阿王塚、亀山古墳など D. 諏訪神社1～5号墳、奥郷円墳群など

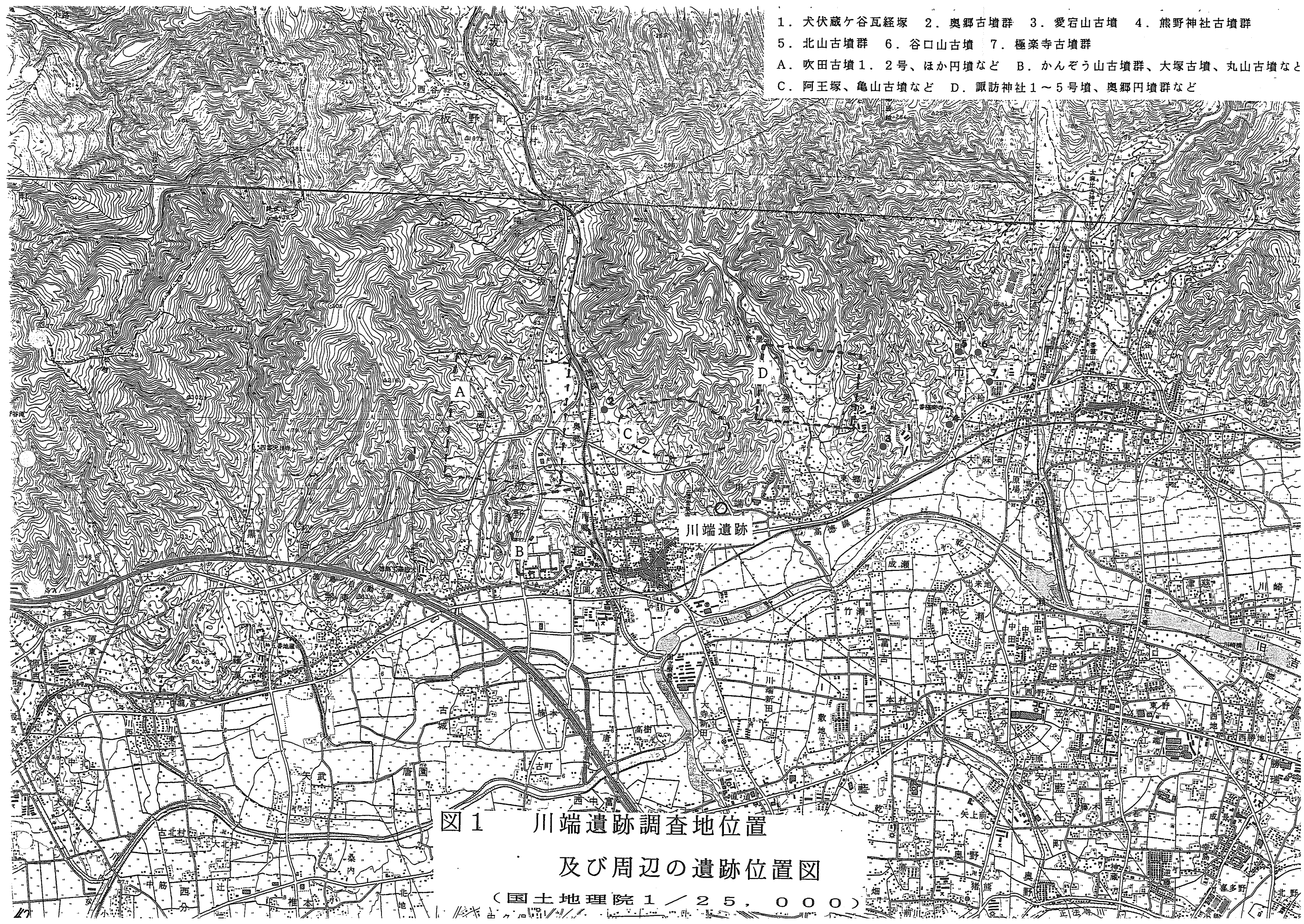


図1 川端遺跡調査地位置
及び周辺の遺跡位置図

(国土地理院 1 / 25,000)



図2 川端遺跡 調査区位置図

(1 / 1, 000)

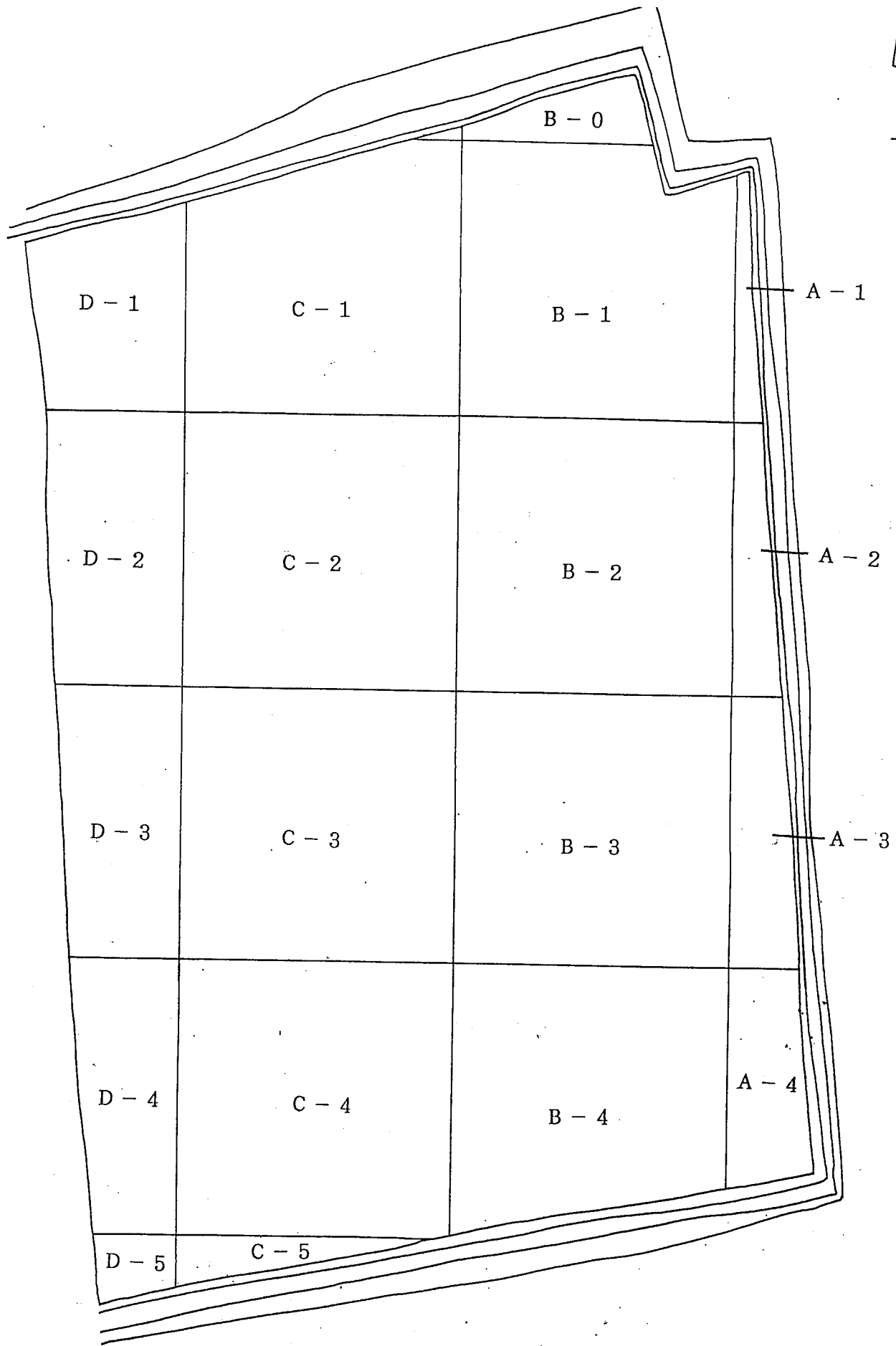
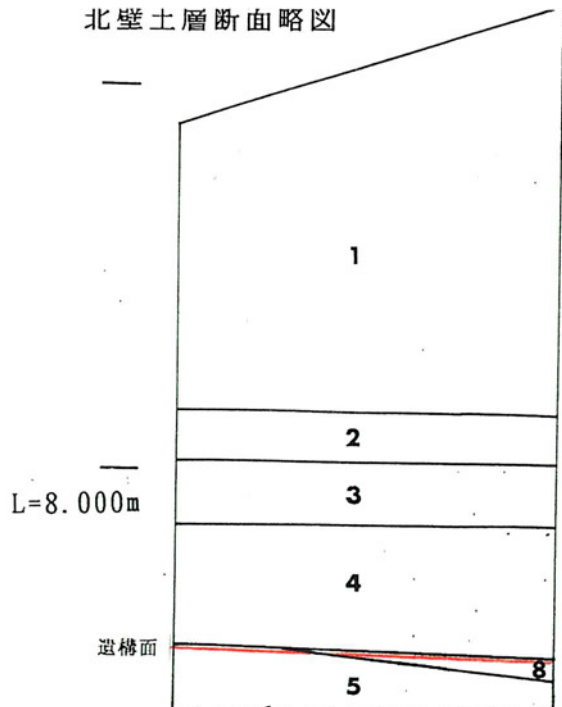


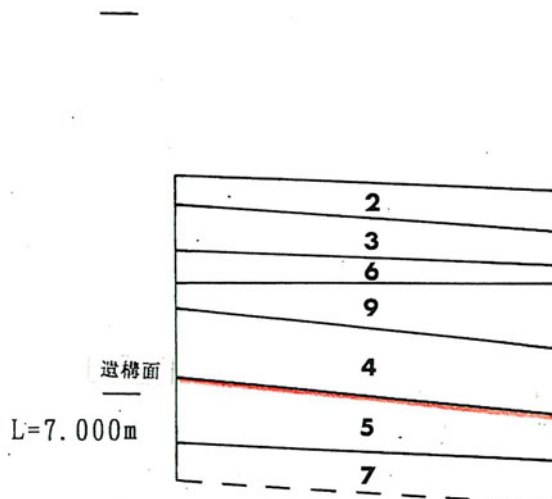
図 3 調査区グリッド配置図

(1 / 1 0 0)

北壁土層断面略図



東壁土層断面略図



- 1、褐色(10YR4/4)〔客土・盛り土層〕
- 2、暗オリーブ褐色(2.5YR3/3)粘性砂質土〔耕作土〕
- 3、黄褐色(2.5Y5/4)粘性砂質土〔床土〕
- 4、灰黄褐色(10YR4/2)粘性砂質土〔流動的な層(客土的)〕
- 5、褐色(10YR4/4)粘性砂質土〔この直上が遺構構築面〕
- 6、灰黄褐色(10YR4/2)粘性砂質土、植物遺体の沈着あり〔旧耕作土〕
- 7、褐灰色(7.5YR4/1)粘質土、グライ化の現象傾向あり〔自然堆積層〕
- 8、褐灰色(10YR4/1)と 鈍い黄褐色(10YR4/3)の混色、粘性砂質土、〔SDの覆土〕
- 9、褐灰色(10YR5/1)粘性砂質土、若干シルト傾向〔自然堆積層〕
- 10、褐灰色(7.5YR4/1)粘性砂質土、若干シルト傾向〔噴泥の跡か〕

N

東壁土層堆積状況断面図

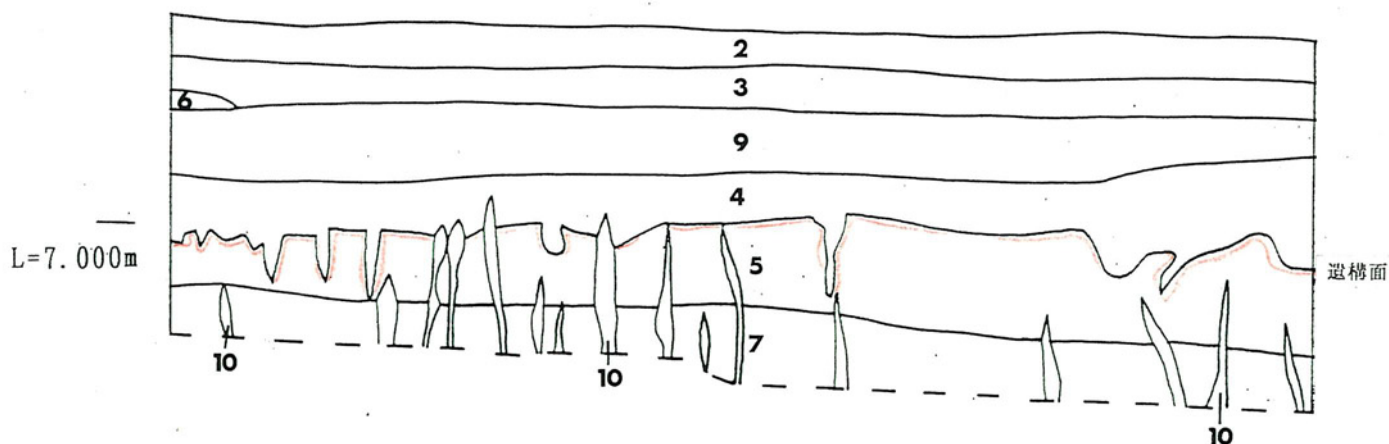


図4 壁面土層堆積状況土層断面図

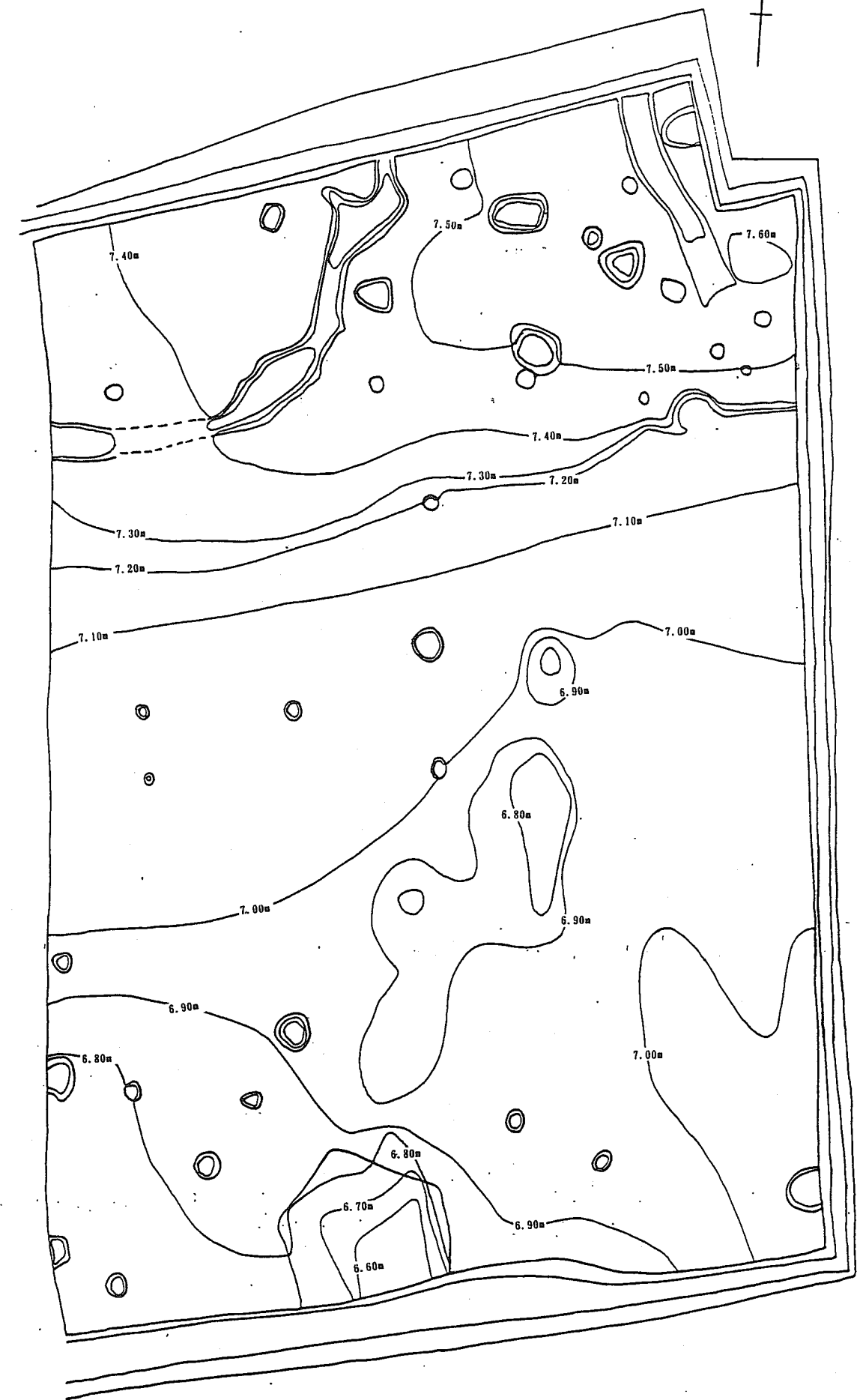
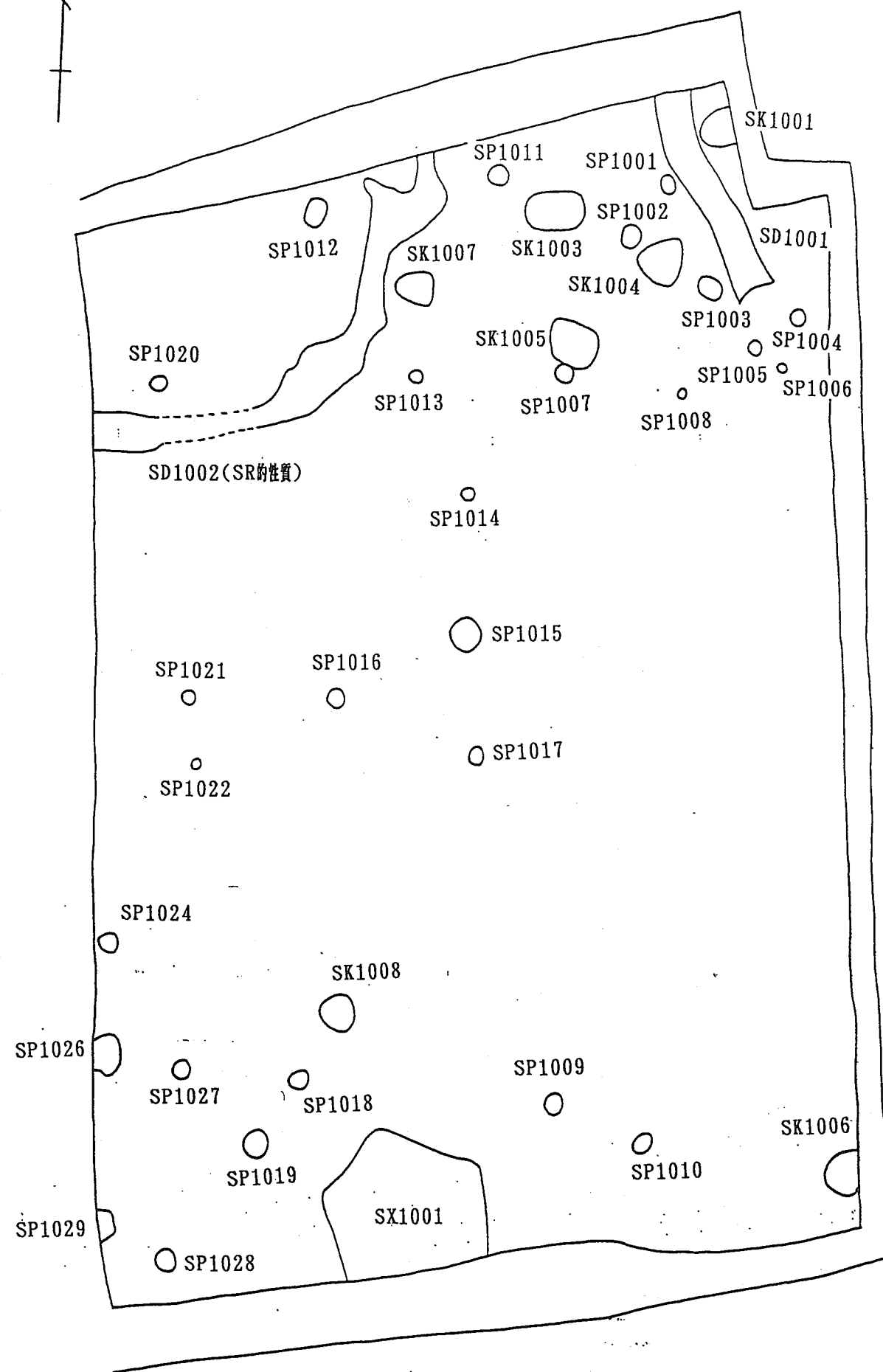
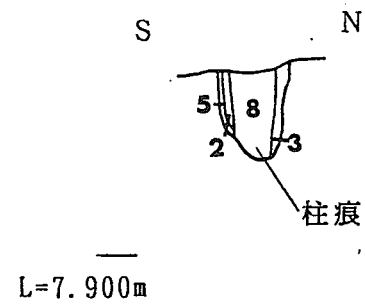


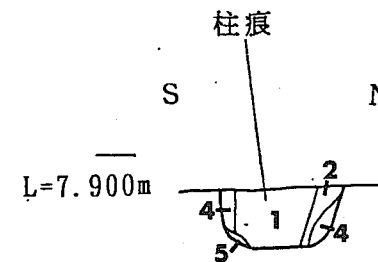
図5 (その1) 遺構配置図 (1/100)

図5 (その2) 完掘状況平面図 (1/100)

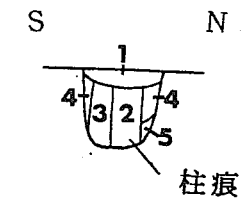
SP1008



SP1009



SP1013



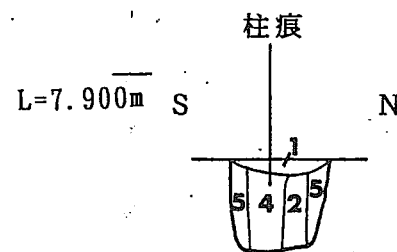
SP1008, 1009

- 1、暗褐色(10YR3/3)粘性砂質土若干シルト傾向、 $\phi 0.3 \sim 2$ cm程の礫若干含む〔柱痕か〕
- 2、灰黄褐色(10YR4/2)粘性砂質土若干シルト傾向、 $\phi 0.3$ 程の礫まれに含む
- 3、にぶい黄褐色(10YR4/3)粘性砂質土若干シルト傾向、 $\phi 0.2 \sim 2$ cm程の礫ごくまれに含む
- 4、灰黄褐色(10YR4/2)粘性砂質土若干シルト傾向、 $\phi 0.2 \sim 0.5$ cm程の砂岩礫マンガン粒まれに混入
- 5、にぶい黄褐色(10YR4/3)粘性砂質土、 $\phi 2 \sim 3$ cm程の礫若干まばらに含む、しまりややあり

SP1013

- 1、灰黄褐色(10YR4/2)暗灰黄色(2.5Y4/2)の混色、粘性砂質土若干シルト傾向、 $\phi 0.2 \sim 3$ cm程の礫および炭粒まれに混入
- 2、にぶい黄褐色(10YR4/3)粘性砂質土若干シルト傾向、 $\phi 0.2 \sim 2$ cm程の礫ごくまれに含む
- 3、灰黄褐色(10YR4/2)粘性砂質土若干シルト傾向、 $\phi 0.2 \sim 0.5$ cm程の礫マンガン・炭粒まれに混入
- 4、にぶい黄褐色(10YR4/3)粘性砂質土、 $\phi 2 \sim 3$ cm程の礫若干まばらに含む、しまりややあり
- 5、にぶい黄褐色(10YR4/3)粘性砂質土、 $\phi 2 \sim 3$ cm砂岩程の礫若干含む、しまりややあり〔地山層〕

SP1027



SP1027, 1028

- 1、灰黄褐色(10YR4/2)暗灰黄色(2.5Y4/2)の混色、粘性砂質土若干シルト傾向、炭粒ごくまれに混入
- 2、にぶい黄褐色(10YR4/3)粘性砂質土若干シルト傾向、 $\phi 0.2 \sim 2$ cm程の礫ごくまれに含む
- 3、暗褐色(10YR3/3)粘性砂質土若干シルト傾向、 $\phi 0.3 \sim 2$ cm程の礫若干含む〔柱痕か〕
- 4、暗褐色(10YR3/3)にぶい黄褐色(10YR4/3)この混色、粘性砂質土若干シルト傾向、炭粒ごくまれに混入
 $\phi 0.3 \sim 2$ cm程の礫若干含む〔柱痕の可能性あり〕
- 5、にぶい黄褐色(10YR4/3)粘性砂質土、 $\phi 2 \sim 3$ cm程の礫若干まばらに含む、しまりややあり

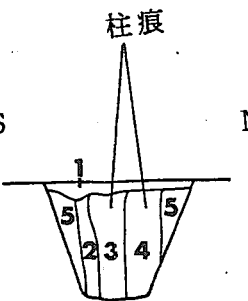


図6 主な遺構の覆土堆積状況 (その1)

SK1001



L=7.900m

SK1001

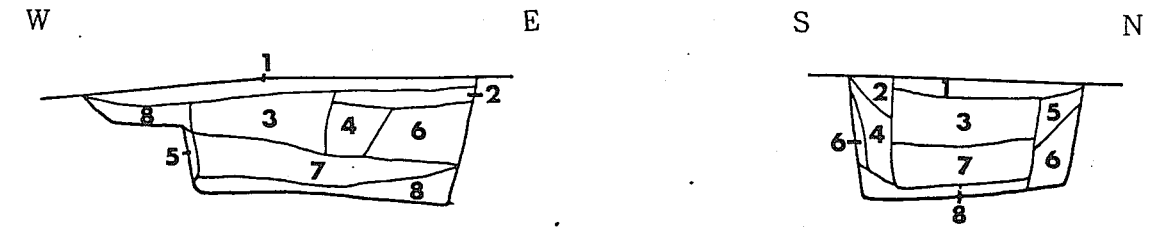
- 1、灰黄褐色(10YR4/2) 暗灰黄色(2.5Y4/2)も若干混入、粘性砂質土若干シルト傾向、
φ0.2~3cm程の砂岩礫ごくまれに含む、炭・マンガン粒まれに含む
- 2、灰黄褐色(10YR4/2)にぶい黄褐色(10YR4/3)も若干混入、粘性砂質土若干シルト傾向、
φ0.2~0.5cm程の砂岩礫・炭・マンガン粒ごくまれに含む
- 3、灰黄褐色(10YR4/2)粘性砂質土若干シルト傾向、φ0.3cm程の礫・炭・マンガン粒まれに含む
- 4、にぶい黄褐色(10YR4/3)粘性砂質土、φ0.2~3cm程の礫まれにまばらに含む、炭粒まれに含む
- 5、にぶい黄褐色(10YR4/3)粘性砂質土、φ0.2~3cm程の礫まれに含む、しまりややあり[地山層]

SK1004



L=7.900m

SK1003



L=7.900m

SK1003

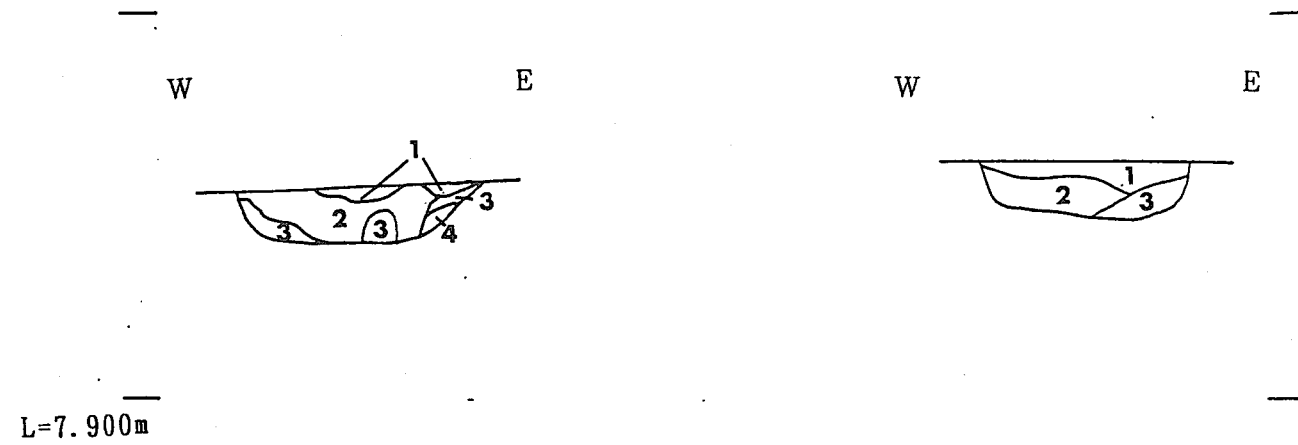
- 1、灰黄褐色(10YR4/2) 暗灰黄色(2.5Y4/2)も若干混入、粘性砂質土若干シルト傾向、
φ0.2~3cm程の砂岩礫ごくまれに含む、炭・マンガン粒まれに含む
- 2、灰黄褐色(10YR4/2)粘性砂質土、φ0.2~0.5cm程の砂岩礫まれに含む、マンガン粒ごくまれに含む
- 3、灰黄褐色(10YR4/2)粘性砂質土若干シルト傾向、φ0.3cm程の礫・炭・マンガン粒まれに含む
- 4、にぶい黄褐色(10YR4/3)灰黄褐色(10YR4/2)少量混入、粘性砂質土若干シルト傾向、
φ0.2~2cm程の礫まれにまばらに含む、炭粒まれに含む
- 5、褐色(10YR4/4)灰黄褐色(10YR4/2)の混色、粘性砂質土、φ0.2~0.8cm程の礫まれに含む
炭・マンガン粒まれに含む
- 6、灰黄褐色(10YR4/2)にぶい黄褐色(10YR4/3)も若干混入、粘性砂質土若干シルト傾向、
φ0.2~0.5cm程の砂岩礫・炭・マンガン粒ごくまれに含む
- 7、灰黄褐色(10YR4/2)にぶい黄褐色(10YR4/3)も若干混入、粘性砂質土若干シルト傾向、
φ0.2~5cm程の砂岩礫ごくまれに含む、炭・マンガン粒ごくまれに含む、しまりややあり
- 8、にぶい黄褐色(10YR4/3)灰黄褐色(10YR4/2)の混色、粘性砂質土、しまりややあり、
φ0.2~3cm程の礫まれにまばらに含む、まれに含む

SK1004

- 1、灰黄褐色(10YR4/2) 暗灰黄色(2.5Y4/2)も若干混入、粘性砂質土若干シルト傾向、
φ0.2~3cm程の砂岩礫ごくまれに含む、炭・マンガン粒まれに含む
- 2、灰黄褐色(10YR4/2)にぶい黄褐色(10YR4/3)も若干含む、粘性砂質土、
φ0.2~0.5cm程の砂岩礫まれに含む、マンガン粒ごくまれに含む
- 3、にぶい黄褐色(10YR4/3)灰黄褐色(10YR4/2)少量混入、粘性砂質土若干シルト傾向、
φ0.2~2cm程の礫まれにまばらに含む、炭粒まれに含む
- 4、灰黄褐色(10YR4/2)にぶい黄褐色(10YR4/3)も若干混入、粘性砂質土若干シルト傾向、
φ0.2~5cm程の砂岩礫ごくまれに含む、炭・マンガン粒ごくまれに含む、しまりややあり
- 5、灰黄褐色(10YR4/2)にぶい黄褐色(10YR4/3)も若干混入、粘性砂質土若干シルト傾向、
φ0.2~0.5cm程の砂岩礫・炭・マンガン粒ごくまれに含む
- 6、褐色(10YR4/4)灰黄褐色(10YR4/2)の混色、粘性砂質土、φ0.2~0.8cm程の礫まれに含む
- 7、にぶい黄褐色(10YR4/3)灰黄褐色(10YR4/2)の混色、粘性砂質土、しまりややあり、
φ0.2~3cm程の礫まれにまばらに含む、まれに含む

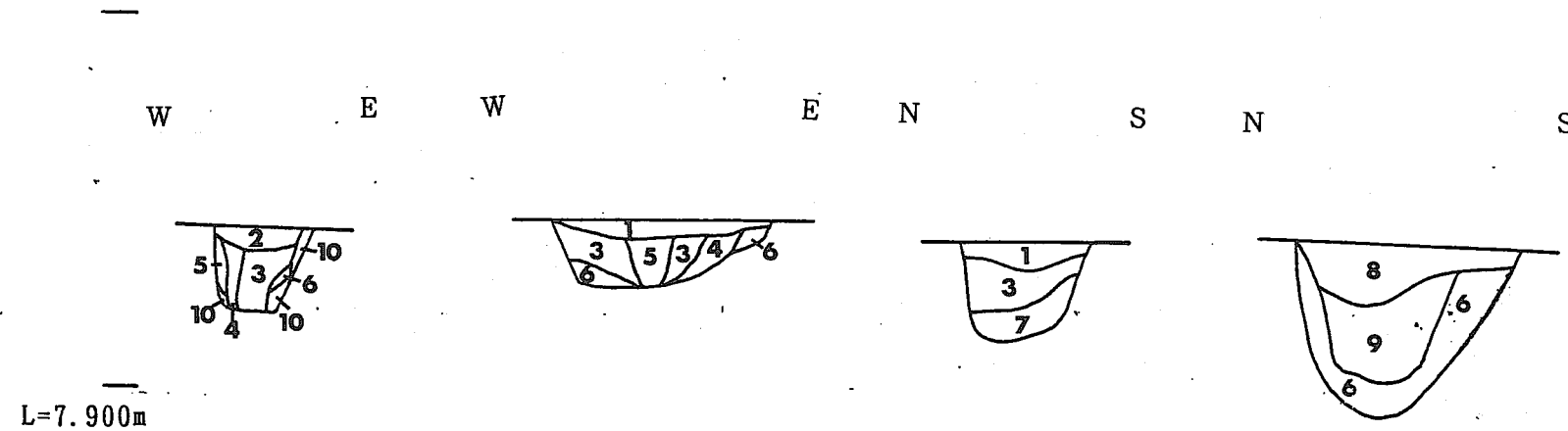
図6 主な遺構の覆土堆積状況 (その2)

SD1001



- 1、灰黄褐色(10YR4/2)粘性砂質土若干シルト傾向、 $\phi 0.2 \sim 3$ cm程の礫まれを含む
- 2、灰黄褐色(10YR4/2)粘性砂質土若干シルト傾向、 $\phi 0.3$ 程の礫つぶ若干含む
- 3、にぶい黄褐色(10YR4/3)粘性砂質土、 $\phi 2 \sim 3$ cm程の礫やや多くまばらに含む
- 4、にぶい黄褐色(10YR4/3)粘性砂質土、 $\phi 0.2 \sim 3$ cm程の礫まれに含む〔地山層〕

SD1002



- 1、灰黄褐色(10YR4/2)粘性砂質土、 $\phi 0.3 \sim 3$ cm程の礫多い
- 2、灰黄褐色(10YR4/2)粘性砂質土若干シルト傾向、 $\phi 0.2 \sim 0.5$ cm程の砂岩礫やや多い
- 3、灰黄褐色(10YR4/2)粘性砂質土、 $\phi 0.3$ cm前後の砂岩礫とマンガン粒若干含む
- 4、にぶい黄褐色(10YR4/3)粘性砂質土若干シルト傾向、 $\phi 0.3 \sim 2$ cm程の砂岩礫若干含む
- 5、灰黄褐色(10YR4/2)粘性砂質土若干シルト傾向、 $\phi 0.3$ 程の礫やや多く含む
- 6、にぶい黄褐色(10YR4/3)粘性砂質土、 $\phi 2 \sim 3$ cm程の礫やや多くまばらに含む
- 7、灰黄褐色(10YR4/2)粘性砂質土、 $\phi 0.2 \sim 5$ cm程の礫若干含む
- 8、灰黄褐色(10YR4/2)にぶい黄褐色(10YR5/4)も混入、粘性砂質土、 $\phi 0.5 \sim 5$ cm程の砂岩礫多い
- 9、暗褐色(10YR3/3)粘性砂質土若干シルト傾向、 $\phi 0.5 \sim 15$ cm程の砂岩礫多い、上層に白石も3割含む
- 10、にぶい黄褐色(10YR4/3)粘性砂質土、 $\phi 0.2 \sim 3$ cm程の礫まれに含む〔地山層〕

図6 主な遺構の覆土堆積状況 (その3)

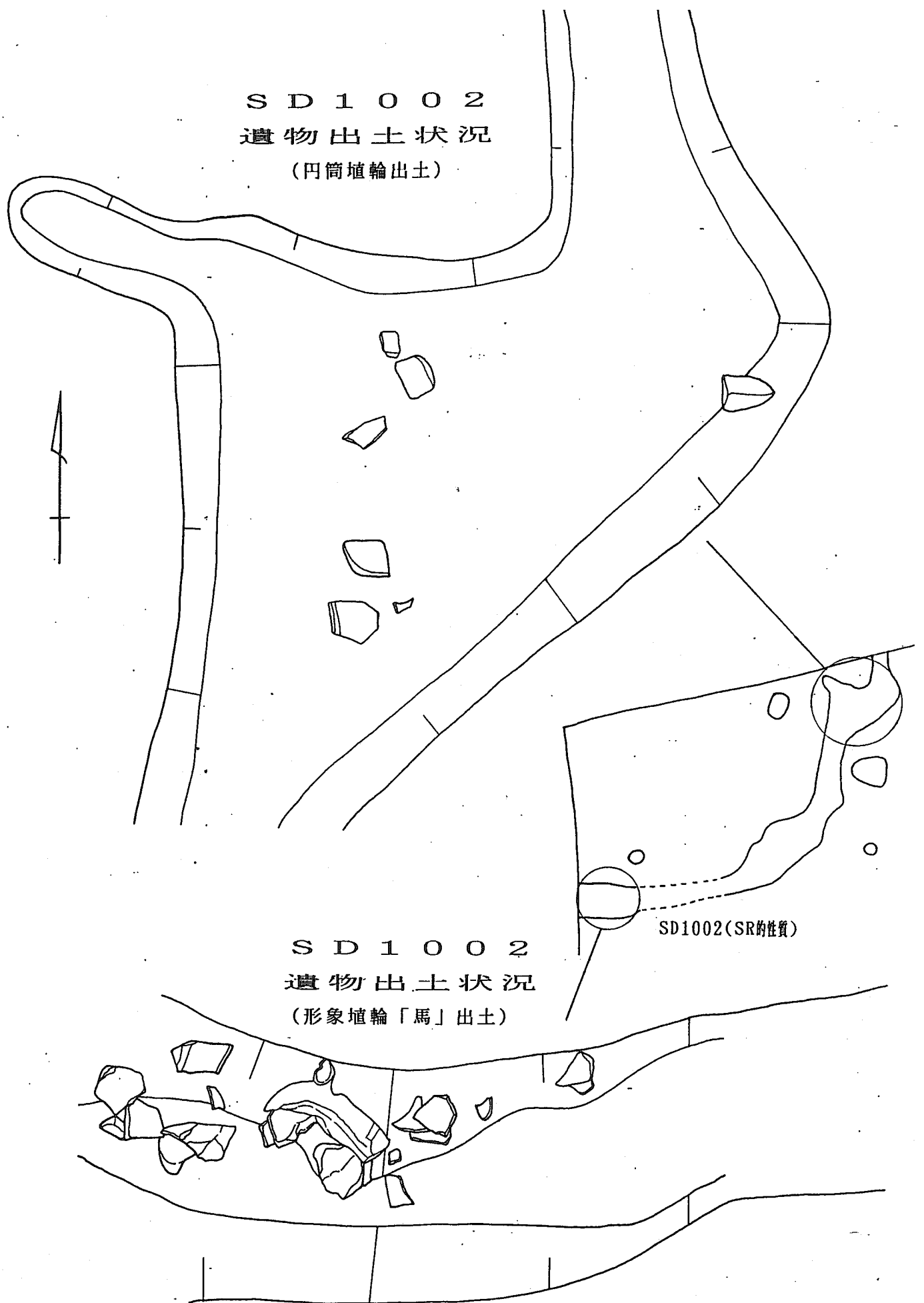
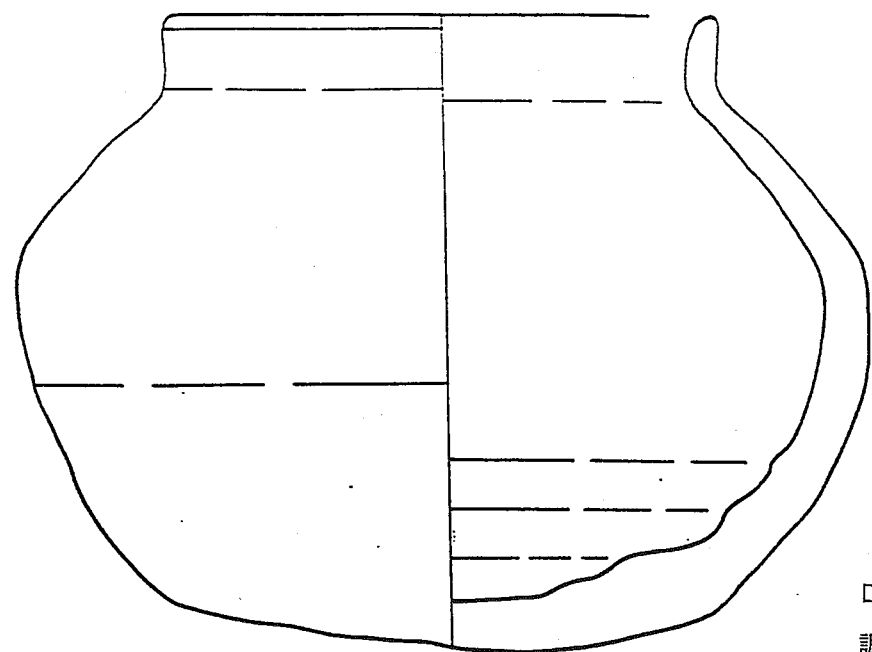
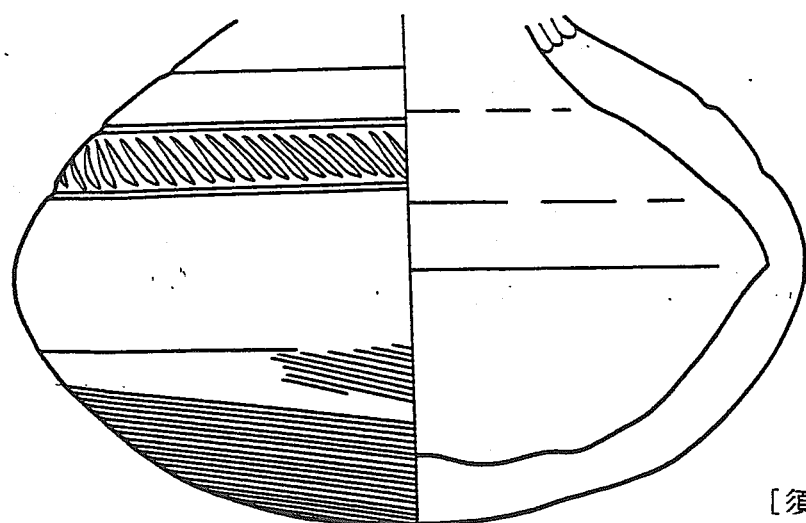


図7 主な遺物の出土状況平面図



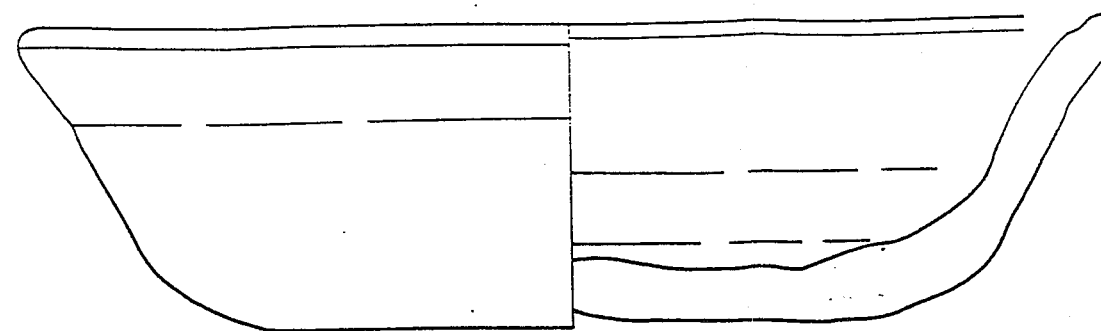
〔須恵器壺〕

口径 : 7.2 cm
調整 : 全体にナデ
胎土色 : 内面灰色(4/0Hven)
外面灰色(4/0Hven)
胎土灰色(4/0Hven)
出土地点 : B-3 3層から



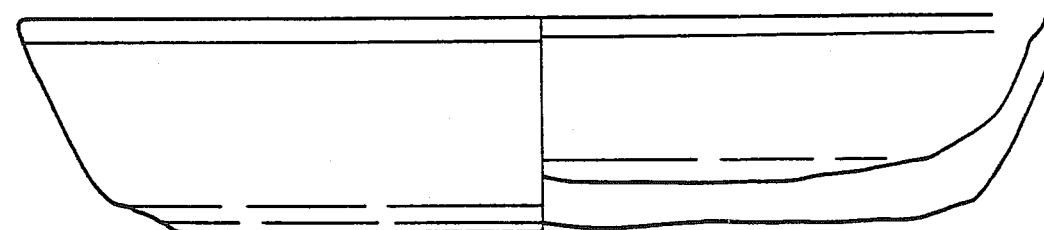
〔須恵器壺〕

最大径 : 10.4 cm
調整 : ハケ目模様
胎土色 : 青灰(5B6/1)
出土地点 : S D 1 0 0 1 覆土中
X=127.386.430
Y=89.813.115



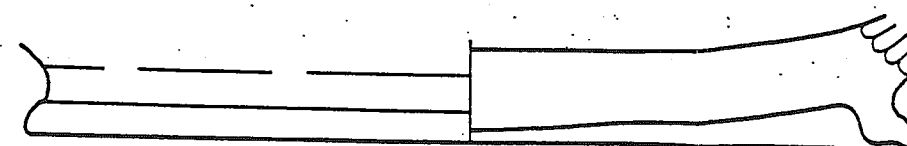
〔土師器皿〕

口径 : 14.4 cm
調整 : 全体にナデ
含有物組成 : 石英・角内石
胎土色 : 内面 にぶい赤褐色(4/3Hve2.5YR) 外面 灰赤色(5/2Hve2.5YR)
胎土 にぶい赤褐色(4/4Hve2.5YR)
出土地点 : B-3 第3層直下



〔土師器皿〕

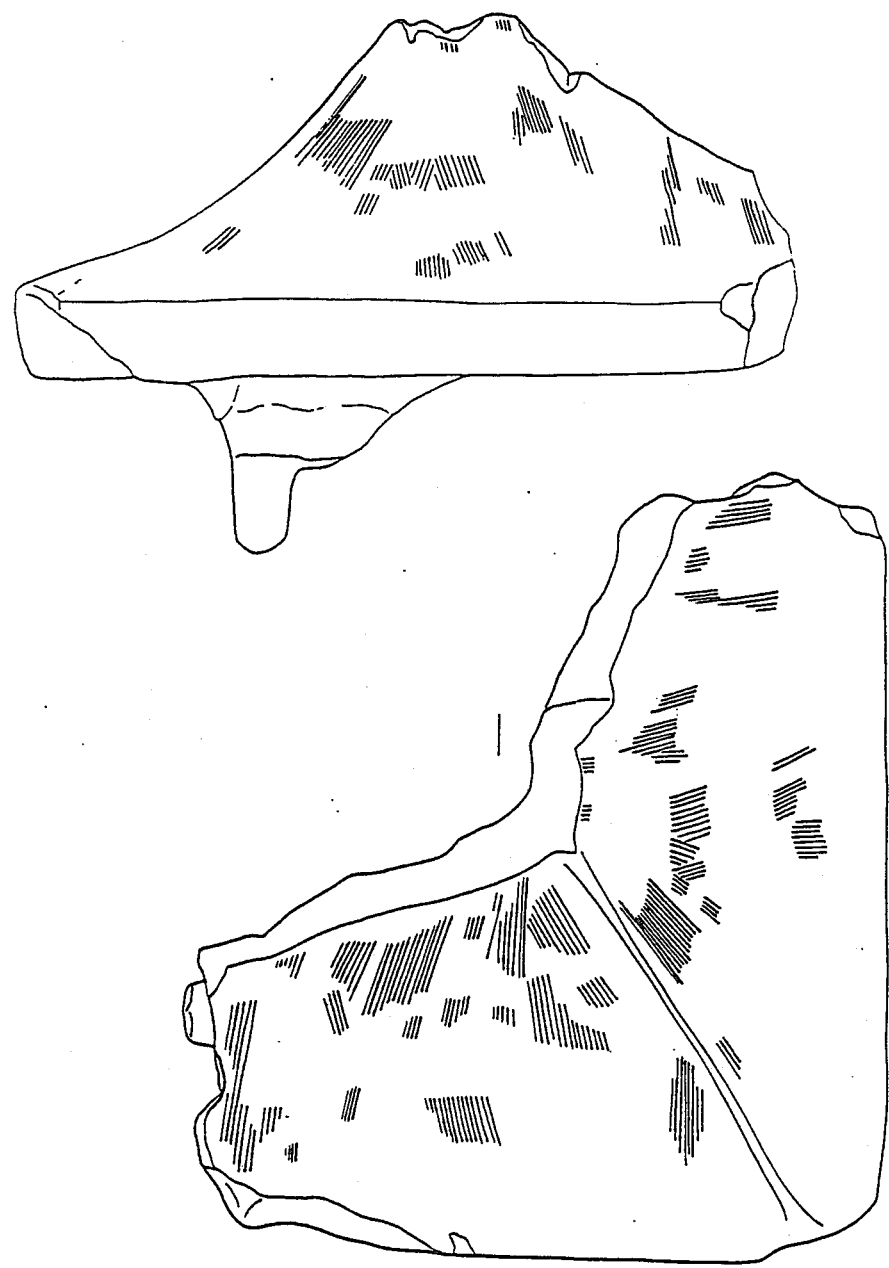
口径 : 13.6 cm
調整 : 全体にナデ
含有物組成 : 結晶片岩・石英・赤色斑粒
胎土色 : 内面 橙色(7/6Hve5YR) 外面 にぶい橙色(7/4Hve7.5YR)
胎土 暗灰色(3/0N)
出土地点 : B-2 第3層



〔土師器〕

底径 : 11.6 cm
調整 : 全体にナデ
含有物組成 : 石英含む
胎土色 : 灰白色(5Y7/1)
出土地点 : B-0 S K 1 0 0 1 覆土直上

図8 主な出土遺物実測図(その1)

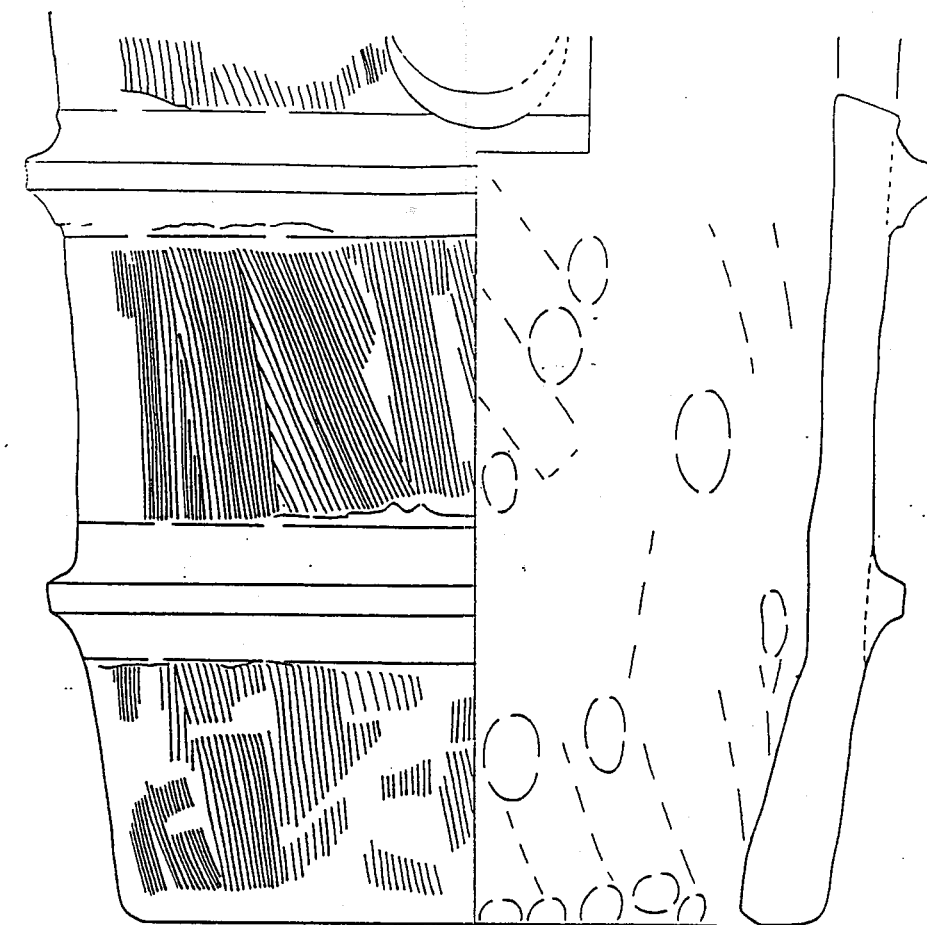
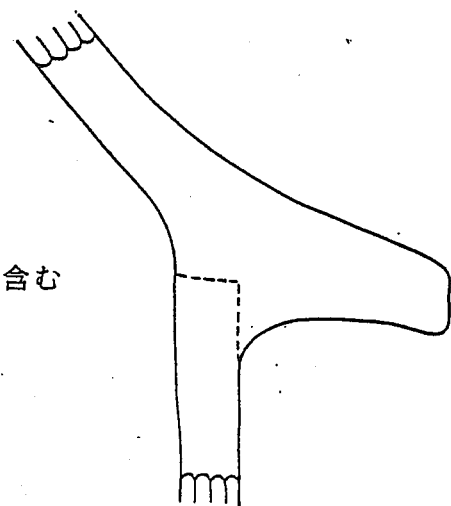


〔形象埴輪「家型」〕

調整 : ハケ目若干有り(8條/cm)

胎土 : 石英・その他砂粒を多く含む
にぶい橙(7.5YR7/4)

出土地点 : B-3 第3層



〔円筒埴輪〕

底径 : 18cm

調整 : 外面 ハケ目(5~8條/cm)

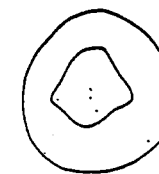
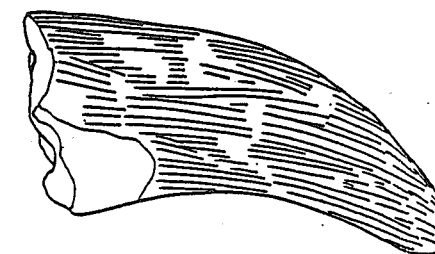
内面 指押さえと板ナデ

胎土 : 石英・その他砂粒を多く含む
にぶい橙(5YR6/6)

出土地点 : B-3 第3層

X=127.374.850

Y=89.812.020



〔形象埴輪「馬の尾」〕

調整 : ハケ目(約5條/cm)

胎土 : 石英を含む
にぶい橙(7.5YR7/4)

出土地点 : C-1 第3層

図8 主な出土遺物実測図(その2) 1 / 2

調整 : ハケ目

胎土色 : にぶい橙(7.5YR7/4)

含有物組成 : 0.5-2mm程度の石英を多く含む

微量の雲母を含む

出土地点 : SD1002西端付近

(図7参照)

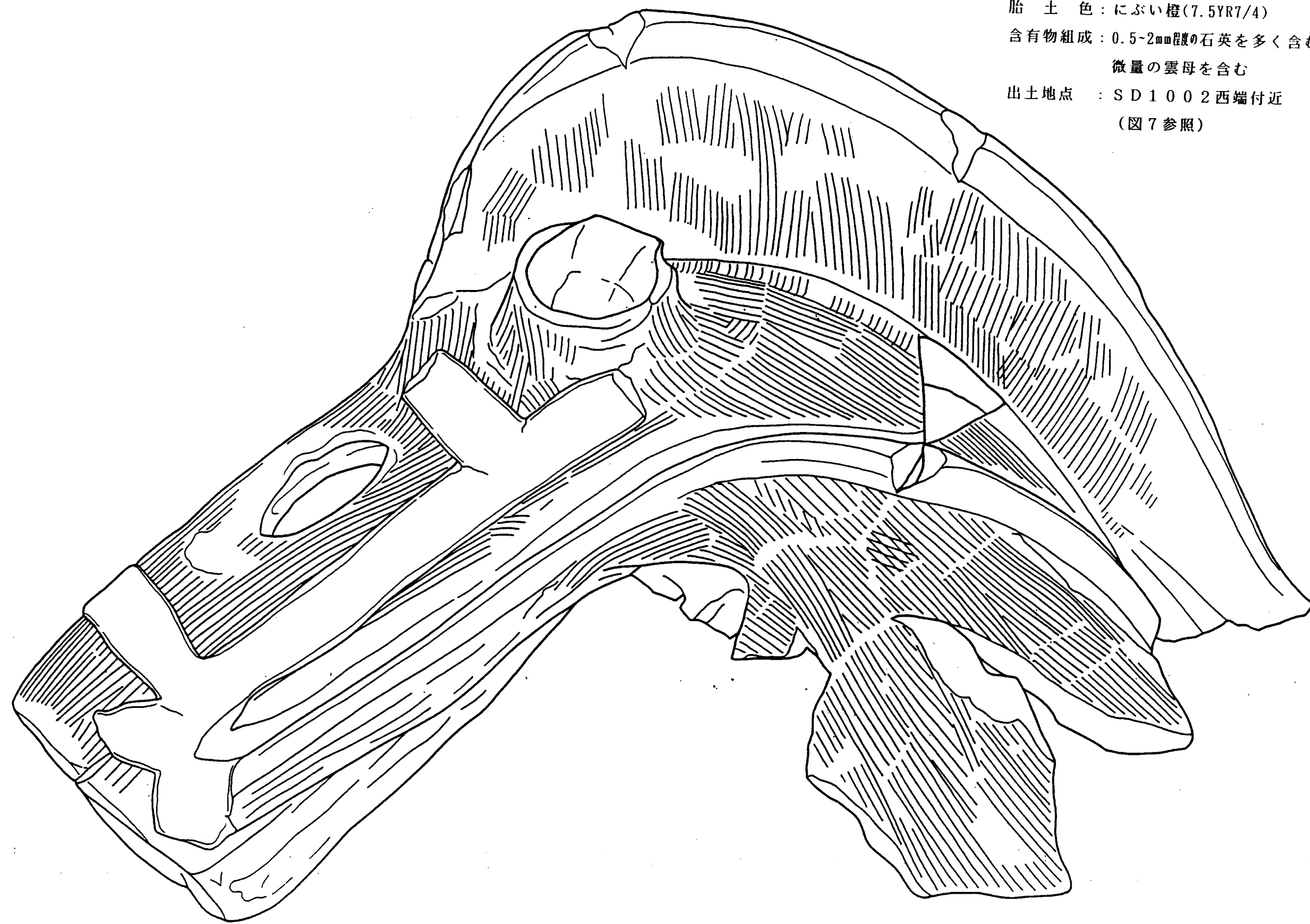


図8 主な出土遺物実測図(その3)



NO.

調査区周辺環境
(南東から)



NO.

土層堆積状況
(東壁)



NO.

作業風景

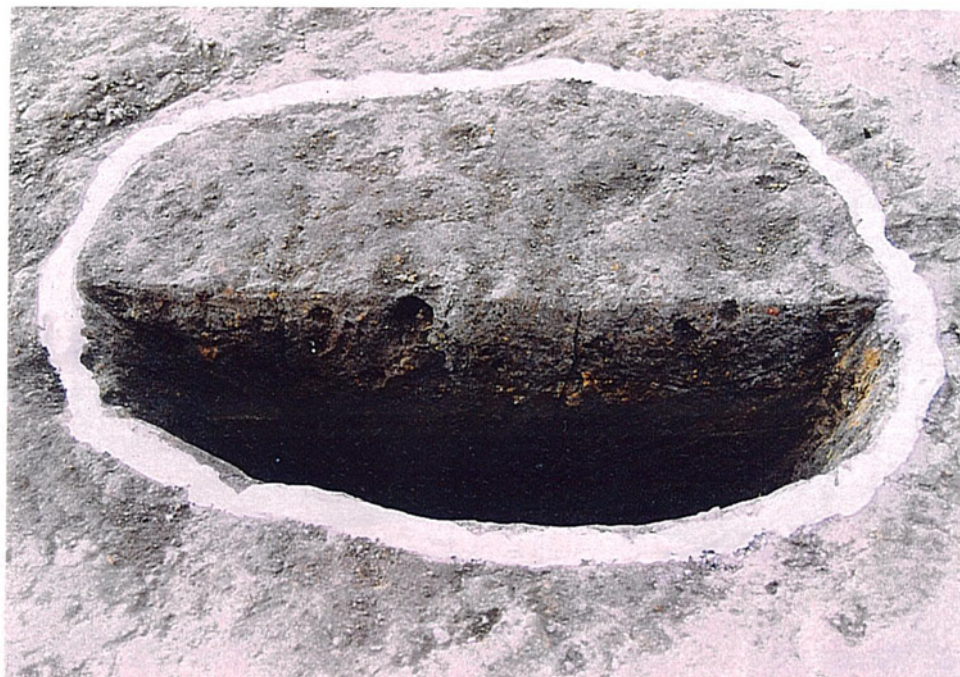
NO.

遺構検出状況
(北から)



NO.

土層堆積状況
SP1012



NO.

土層堆積状況
SK1003





土層堆積状況

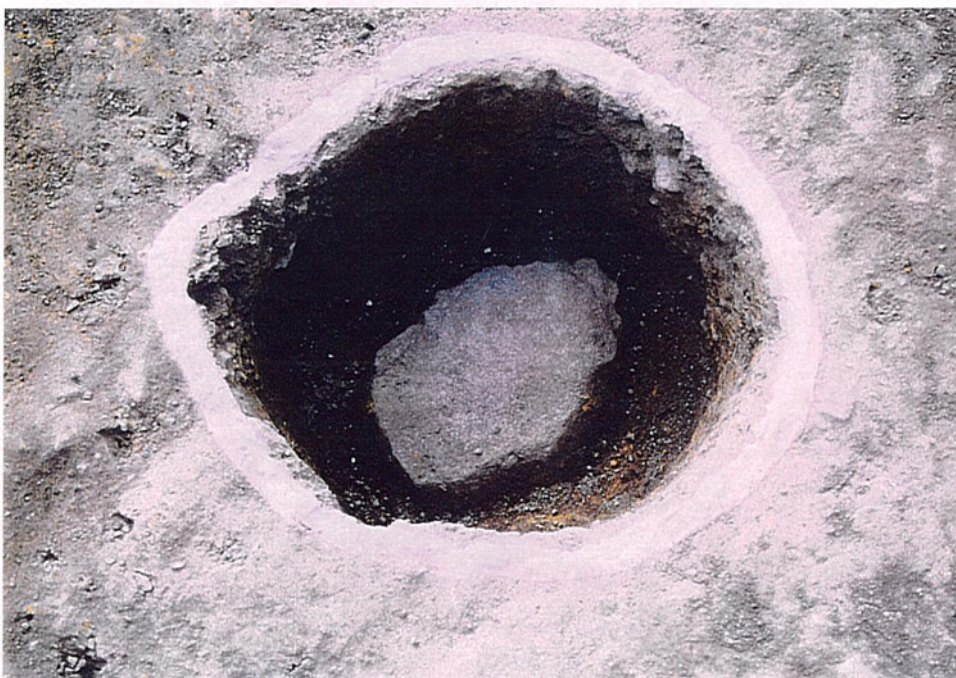
SD1001



NO.

土層堆積状況

SD1002



NO.

完掘状況

SP1009

(礎石が出土)

NO.

完掘状況

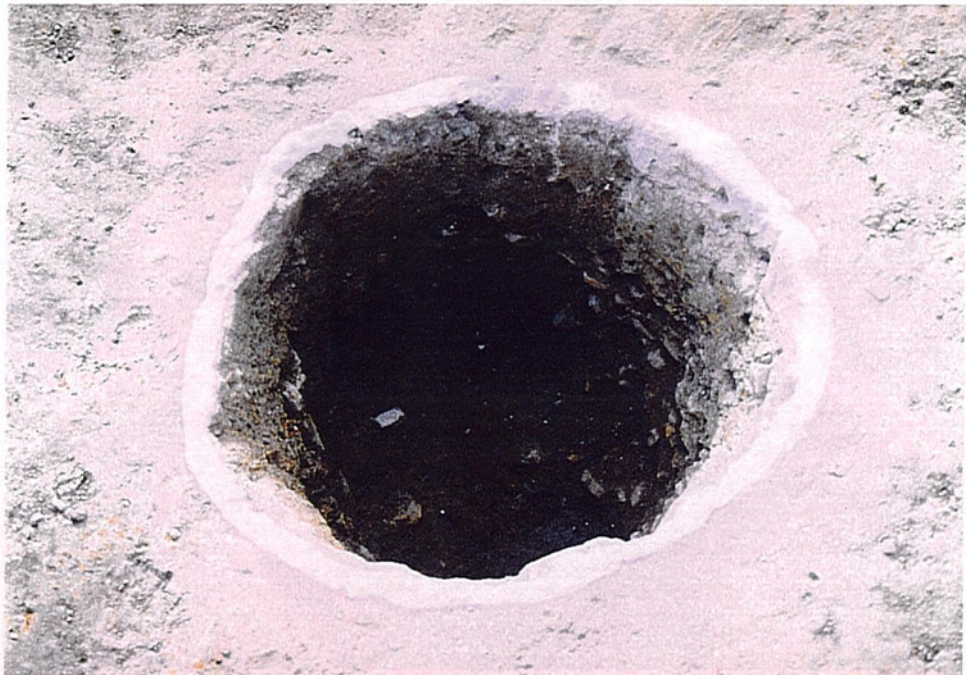
SK1005



NO.

完掘状況

SP1028



NO.

完掘状況

調査区全景





NO.

遺物出土状況

須恵器「壺」

SD1002覆土



NO.

遺物出土状況

円筒埴輪

B-3グリッド



NO.

遺物出土状況

須恵器「蓋」

SP1017覆土

NO.

遺物出土状況

須恵器「壺」

B-3グリッド



NO.

遺物出土状況

形象埴輪「馬」

SD1002覆土



NO.

主な出土遺物





形象埴輪（馬）土師質
頭部 側方より
SD1002西端



形象埴輪（馬）土師質
頭部 上から
SD1002西端



円筒埴輪 須恵質
側方より
人力堀削中C-1

NO

円筒埴輪 須恵質
側方より
人力掘削中C-1



NO

形象埴輪（家）土師質
上方から
人力掘削中B-3



余 白

◀E・L